

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第5643760号  
(P5643760)

(45) 発行日 平成26年12月17日(2014.12.17)

(24) 登録日 平成26年11月7日(2014.11.7)

(51) Int.Cl.

F I

A 4 5 D 33/00 (2006.01)

A 4 5 D 33/00 6 1 0 H

請求項の数 13 (全 15 頁)

|               |                               |           |                      |
|---------------|-------------------------------|-----------|----------------------|
| (21) 出願番号     | 特願2011-523439 (P2011-523439)  | (73) 特許権者 | 506273087            |
| (86) (22) 出願日 | 平成21年8月18日 (2009.8.18)        |           | シャネル パルファン ボーテ       |
| (65) 公表番号     | 特表2012-500076 (P2012-500076A) |           | CHANEL PARFUMS BEAU  |
| (43) 公表日      | 平成24年1月5日 (2012.1.5)          |           | TE                   |
| (86) 国際出願番号   | PCT/FR2009/051595             |           | フランス、エフ-92200 ニュイリー  |
| (87) 国際公開番号   | W02010/020731                 |           | スュル セイン、アヴェニュー チャール  |
| (87) 国際公開日    | 平成22年2月25日 (2010.2.25)        |           | ズ ドゥ ゴール、135         |
| 審査請求日         | 平成24年8月2日 (2012.8.2)          |           | 135, avenue Charles  |
| (31) 優先権主張番号  | 0855650                       |           | de Gaulle, F-92200 N |
| (32) 優先日      | 平成20年8月20日 (2008.8.20)        |           | euilly sur Seine, Fr |
| (33) 優先権主張国   | フランス (FR)                     |           | ance                 |
|               |                               | (74) 代理人  | 110001173            |
|               |                               |           | 特許業務法人川口国際特許事務所      |

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 格納式のヒンジを有する化粧品または身体衛生用品のケース

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

底部(2A)および自由縁(2B)を有しており、固形、ペースト状、または粉末状の製品を収容する皿(5)を収容する本体(2)と、

本体に取り付けられ、製品へのアクセスが可能な状態と閉じた状態との間を本体に対して枢動する蓋(3)とを備えている、固形、ペースト状、または粉末状の化粧品または身体衛生用品のためのケースであって、

可動アセンブリを備え、該可動アセンブリが、皿(5)と蓋(3)が接続される接続領域(9、10)とを含み、前記可動アセンブリが、底部に対して垂直な方向に平行移動することができ、前記ケースがさらに、

最大押し込み位置に対して2つの安定な引っ込み位置を有しており、本体と可動アセンブリとの間に挿入され、可動アセンブリの最大押し込み状態および最小押し込み状態を定める少なくとも1つの弾性的に圧縮することができるアセンブリ(40)を備えており、

これらの状態が、可動アセンブリが最大押し込み状態にあり、かつ蓋(3)が閉じられた状態にあるとき、可動アセンブリの接続領域(9、10)およびこの蓋の少なくとも一部分が、本体内に格納される一方で、この可動アセンブリが最小押し込み状態にあるときは、接続領域(9、10)が少なくとも部分的に本体の外に位置して、この状態の間で蓋の枢動が可能にされ、蓋がユーザにこの枢動をもたらすための十分な把持を提供するような状態であることを特徴とする、ケース。

【請求項 2】

10

20

可動アセンブリの最小押し込み状態が、皿(5)が本体の自由縁(2B)と同一面に位置するような状態であることを特徴とする、請求項1に記載のケース。

【請求項3】

可動アセンブリおよび本体が、平行移動案内足(11A)を形成する要素を含んでいることを特徴とする、請求項1または2に記載のケース。

【請求項4】

前記足(11A)は、可動アセンブリが最小押し込み状態を過ぎて本体から分離することを防止するように設計されていることを特徴とする、請求項3に記載のケース。

【請求項5】

前記足(11A)が、前記弾性的に圧縮することができるアセンブリ(40)の構成要素から離れて位置していることを特徴とする、請求項3または4に記載のケース。

10

【請求項6】

可動アセンブリを本体の底部から離れる方向に動かそうとする弾性的に圧縮することができる要素が、前記足(11A)に設けられることを特徴とする、請求項3から5のいずれか一項に記載のケース。

【請求項7】

蓋を閉じた状態に一時的に保持することができるよう、相補的取り付け手段(45、46)が、蓋および可動アセンブリで形成されるアセンブリとケース本体との間に設けられていることを特徴とする、請求項1から6のいずれか一項に記載のケース。

【請求項8】

20

相補的取り付け手段(45、46)が、蓋および弾性的に圧縮することができるアセンブリ(40)のプランジャに保持されていることを特徴とする、請求項7に記載のケース。

【請求項9】

可動アセンブリが、接続領域(9、10)を含む可動フレーム(11)を備えており、弾性的に圧縮することができるアセンブリ(40)と協働し、該可動フレーム(11)に、皿(5)が取り外し可能に係合することを特徴とする、請求項1から8のいずれか一項に記載のケース。

【請求項10】

弾性的に圧縮することができるアセンブリが、互いに対して可動であって、少なくとも1つのばねによって互いに向かってばね付勢されている2つの当接面(41、43)を有する少なくとも1つのプランジャを備えており、一方の当接面が、底部の平均平面に垂直な平面におおむね位置したハート形の閉じた案内トラック(42)に取り付けられ、他方の当接面が、該当接面の相対移動の際にこの案内トラックをたどるように構成されたフォロワフィンガ(44)を有していることを特徴とする、請求項1から9のいずれか一項に記載のケース。

30

【請求項11】

弾性的に圧縮することができるアセンブリが、互いに対して回転および相対の平行移動が可能であって、少なくとも1つのばね(63)によって押し合わせられている2つのリング(61、62)で形成された2つの当接面を有している少なくとも1つのプランジャを備えており、一方のリング(61)が、他方のリング(62)に取り付けられた環状のトラックに対して押し付けられる放射状の突起を備えており、この環状のトラックが、少なくとも2つの異なる深さを有する歯を備えている鋸歯状であることを特徴とする、請求項1から9のいずれか一項に記載のケース。

40

【請求項12】

弾性的に圧縮することができるアセンブリが、最大押し込み位置に対して2つの安定な位置を有している少なくとも2つの弾性的に圧縮することができるプランジャ(60)を、接続領域を通過するケースの断面の各側にそれぞれ位置させて備えていることを特徴とする、請求項1から11のいずれか一項に記載のケース。

【請求項13】

50

弾性的に圧縮することができるアセンブリが、同期要素を備えている少なくとも２つの弾性的に圧縮することができるプランジャを備えていることを特徴とする、請求項１から１２のいずれか一項に記載のケース。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【０００１】

本発明は、特に粉末またはクリームなどの固形、ペースト状、または粉末状の化粧品または身体衛生用品のためのケースに関する。

【背景技術】

【０００２】

そのようなケースは、伝統的に、おおむね平坦（高さが他の寸法よりも大幅に小さい）であって、円形、正方形（おそらくは、角が丸みを帯びている）、矩形、多角形、などであってもよい形状を有している。そのようなケースは、通常は、典型的には底部および横壁で形成される本体と、横壁に接続された蓋とで構成され、蓋が、ケースが閉じた状態にあるときに横壁に整列し、場合によっては横壁にかぶさる縁を有している。本体に対する蓋の動きの角度を大きくして、例えば蓋の内面に設けられることがある鏡をユーザが使用できるようにする（これが、この角度の運動が、典型的には９０°を超える（例えば約１２０°である）理由である）ために、接続部が、通常は横壁および蓋（通常は、蓋の縁）の外面に沿って延びている。結果として、このヒンジが視認され、ケースの全体としての美観を損なう可能性がある。

【０００３】

さらには、そのようなケースの蓋は、通常は、接続部から離れて位置する蓋の突起への働きかけによって操作され、この突起が、多くの場合に、閉じた状態において蓋を横壁に保持またはロックするために、横壁に設けられる別の突起と協働する。これらの突起は、例えば蓋と本体との間の境界の付近に位置する。

【０００４】

また、上述のように本体および蓋を備えているが、この蓋が接続されているのではなく、ねじ込み式またはクリップ式で閉じた状態に保持される化粧品または身体衛生用品のための容器も知られている。しかしながら、そのような構造は、平坦な形状においてはほとんど使用できず、したがって、通常は、これらの容器は、上述のケースよりもかさばっている（一般に、「ポット」と呼ばれる）。さらには、蓋が本体から独立しているため、ユーザが容器の内部にアクセスしようとする場合に、蓋を本体とは別に置かなければならないばかりか、容器の開放（および、閉鎖）に、厄介に感じられる可能性がある複雑な動作（特に、ユーザがテーブルに着席しておらず、または公共の場所に居る場合）にて両手を使用しなければならないという欠点を有している。これが、コンパクトさ、使用の簡単さ、および信頼性の理由で、蓋が恒久的に本体に接続されているケースが好まれる理由である。

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【０００５】

蓋が本体に恒久的に接続されている化粧品または身体衛生用品のケースが、一般に、１つ以上の視認されるヒンジおよび突起を有しており、これが、少なくとも全体としての美観を損ないかねない本体および蓋に対する視覚的な不連続を構成するという欠点を有することは、すでに説明したとおりである。そのようなヒンジまたは突起のもう１つの欠点は、それらが近隣の物体や、ポケットまたはハンドバッグの内張りに引っ掛かる可能性があり、そのような引っ掛かりが、蓋の開放またはロックの解除に使用される突起によって生じた場合に、ケースが意図せずに開いてしまいかねない点にある。

【０００６】

したがって、蓋がケース本体に恒久的に接続されている化粧品または身体衛生用品のケースであって、コンパクトであり、使用が簡単かつ確実であり、突起、特に、目につくヒ

10

20

30

40

50

ンジが可能なかぎり少ないケースが必要とされている。

【 0 0 0 7 】

したがって、本発明は、蓋が接続されてなる化粧品または身体衛生用品のためのケースであって、閉じた状態にあるときに接続部が外部から見えないが、枢動が妨げられることなく、かつ蓋の縁とケース本体の自由縁との間に過度に大きいすき間が存在せず、ケースの本体に格納された状態からの蓋の大きな相対の枢動運動が可能であるケースを提供する。

【 0 0 0 8 】

ここで、ケース本体を有するケースの従来の接続部の単純な内側への移動は、この目的の達成を可能としないことに留意すべきである。この場合、接続部が、蓋の下方かつケース本体の空間の内部に配置され、結果として蓋の枢動の開始時に、蓋の後部（接続の軸に近い）が自由縁に向かう後方移動を開始すると考えられるが、これは引っ掛かりを生じると考えられ、そのような引っ掛かりを防止するために、蓋の自由縁と本体の自由縁との間にかなりのすき間を設けることが必要になると考えられるが、これはケースの美観および外部環境からの中身の保護（および、その反対）の両方を損なうと考えられる。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 9 】

本発明は、底部および自由縁を有しており、固形、ペースト状、または粉末状の製品を収容する皿を収容する本体と、本体に取り付けられ、製品へのアクセスが可能である状態と閉じた状態との間を本体に対して枢動する蓋とを備えている固形、ペースト状、または粉末状の化粧品または身体衛生用品のためのケースであって、皿と蓋が接続される接続領域とを備えており、底部に対して垂直な方向に平行移動することができる可動アセンブリ、および最大押し込み位置に対して2つの安定な引っ込み位置を有しており、本体と可動アセンブリとの間に挿入され、可動アセンブリの最大押し込み状態および最小押し込み状態を定める少なくとも1つの弾性的に圧縮することができるアセンブリをさらに備えており、これらの状態が、可動アセンブリが最大押し込み状態にあり、かつ蓋が閉じられた状態にあるとき、アセンブリの接続領域およびこの蓋の少なくとも一部分が、本体内に格納される一方で、この可動アセンブリが最小押し込み状態にあるときは、接続領域が少なくとも部分的に本体の外に位置して、この状態の間で蓋の枢動が可能にされ、蓋がユーザにこの枢動をもたらすための十分な把持を提供するような状態であることを特徴とするケースを提供する。

【 0 0 1 0 】

蓋が本体の底部に対して可動であるアセンブリに接続されることに鑑み、蓋が閉じた状態にあるとき、蓋が可動アセンブリと協働して、大きなすき間を存在させることなく、接続部を隠し、蓋が意図せず開いてしまう程度にまで周囲の何かに引っ掛かる可能性を最小限にすべく、本体に十分に格納することができるアセンブリを形成することが明らかである。さらには、蓋が本体から突出する部分を有さず、突き出す接続部または開放／閉鎖用の突起を有さないため、ケースの見た目がきわめてすっきりする。

【 0 0 1 1 】

対照的に、このアセンブリが、接続部および蓋が少なくとも部分的に本体から展開されている安定な状態も有するということが、ユーザが1本の指またはただ1本の指の爪を蓋に置くことによって蓋の枢動を意のままにすることを可能にするとともに、蓋の内面に配置される鏡（存在する場合）の使用を可能にする大きな振幅の枢動も可能にする。

【 0 0 1 2 】

弾性的に圧縮することができるアセンブリを使用することで、蓋を押す（したがって、蓋が閉じた状態にある場合、可動アセンブリが押される）ことによって、このアセンブリの2安定という性質の結果として、アセンブリが枢動を可能にする状態に達することを保証することが可能になる。

【 0 0 1 3 】

それにもかかわらず、ケースの構造が、厚さ方向を含む顕著なコンパクトさに矛盾せず

10

20

30

40

50

、しかもきわめてユーザフレンドリーかつきわめて使用が容易である（特に、製品の中身が外部の環境から有効に保護され、さらには外部の環境が製品の中身から有効に保護される）。

【 0 0 1 4 】

本発明の一特定の有利な特徴によれば、可動アセンブリの最小押し込み状態は、皿が本体の自由縁と同一面に位置するような状態である。これは、使用時の開放状態において、ケースが、本体の空間の実質的にすべてが皿によって占められる通常の外観を呈すると同時に、蓋が閉じられるときに、この皿が蓋の格納を可能にすべく底部に向かって引っ込むという利点を有している。

【 0 0 1 5 】

やはり有利には、可動アセンブリおよび本体が、平行移動案内足を形成する相補的要素を含んでいる。これは、ケース本体に対する可動アセンブリの平行移動を、たとえユーザが弾性的に圧縮することができるアセンブリを作動させるために蓋の中央を押さなくても、確実に実現できるという特段の利点を有している。

【 0 0 1 6 】

前記足は、好ましくは、可動アセンブリが最小押し込み状態を過ぎて本体から分離することを防止するように設計される。これは、アセンブリがケースの本体から意図せずに外れることを防止するという特段の利点を有している。

【 0 0 1 7 】

足は、好ましくは、弾性的に圧縮することができるアセンブリの構成要素から離れて位置している。これは、案内の機能と、可動アセンブリの押し込み状態を規定するという機能とが、分離されるという特段の利点を有している。

【 0 0 1 8 】

これらの足は、有利には、可動アセンブリを本体の底部から離れる方向に動かそうとする弾性的に圧縮することができる要素を含んでいる。当然ながら、これらの弾性的に圧縮することができる要素は、それ自身では、弾性的に圧縮することができるアセンブリがケース本体内の最も沈んだ安定位置にあるときに、可動アセンブリを最小押し込み状態にするために充分であってはならない。このばね付勢は、弾性的に圧縮することができるアセンブリが可動アセンブリを上昇させるべく作動する際に、たとえこのアセンブリがケース本体に対して偏って位置している場合でも、可動アセンブリの外方向への平行移動を容易にするという利点を有することができる。

【 0 0 1 9 】

別の有利な特徴によれば、蓋を閉じた状態に一時的に保持することができるよう、相補的取り付け手段が、蓋および可動アセンブリで形成されるアセンブリとケース本体との間に設けられる。これは、特に激しい衝撃の後で蓋がケース本体から意図せずに離れてしまうことを最小限にするという特段の利点を有している。

【 0 0 2 0 】

これらの相補的手段は、好ましくは、蓋および弾性的に圧縮することができるアセンブリのプランジャに保持される。これは、蓋のケース本体への固定および／または蓋のケース本体からの分離を、状態の変化によって思いのままにできるという特段の利点を有している。

【 0 0 2 1 】

他の有利な特徴によれば、可動アセンブリが、連接領域を含む可動フレームを備えており、この可動フレームが、弾性的に圧縮することができるアセンブリと協働し、この可動フレームに、皿が可逆に係合する。これは、皿を可動アセンブリの残りの部分を変更することなく交換することができるうえに、このフレームが、ケース本体の内部の断面の全体を有利に占めて、全体的な動きの案内の促進に貢献するとともに、可動アセンブリにある程度の剛性を付与するという特段の利点を有している。

【 0 0 2 2 】

別の有利な特徴によれば、弾性的に圧縮することができるアセンブリが、互いに対して

10

20

30

40

50

可動であって、少なくとも1つのばねによって互いに向かってばね付勢されている2つの当接面を有する少なくとも1つのプランジャを備えており、一方の当接面が、底部の平均平面に垂直な平面におおむね位置した閉じたハート形の案内トラックに取り付けられ、他方の当接面が、この当接面の相対移動の際にこの案内トラックをたどるように構成されたフォロワフィングを有している。

【0023】

同等の利点の変形例においては、弾性的に圧縮することができるアセンブリが、互いに対して回転および相対の平行移動が可能であって、少なくとも1つのばねによって押し合わせられている2つのリングで形成された2つの当接面を有している少なくとも1つのプランジャを備えており、一方のリングが、他方のリングに取り付けられた環状のトラック

10

【0024】

当然ながら、他の構成も可能である。

【0025】

プランジャの考え方は、可動アセンブリが単にプランジャに当接し、分離の方向には保持されないことにある。あるいは、ケース本体に取り付けられるのではない方の当接面を、可動アセンブリに取り付けることが可能であり、これにより、可動アセンブリとケース本体との間の平行移動について両方向の結合が確立される。

【0026】

20

さらなる有利な特徴によれば、弾性的に圧縮することができるアセンブリが、最大押し込み位置に対して2つの安定な引っ込み位置を有している少なくとも2つの弾性的に圧縮することができるプランジャを、接続領域を通過するケースの断面の各側にそれぞれ位置させて備えている。これは、弾性的に圧縮することができるアセンブリの可動アセンブリへの作用の領域が分散させられるという特段の利点を有している。弾性的に圧縮することができるアセンブリは、有利には、同期要素を備える少なくとも2つの弾性的に圧縮することができるプランジャを備える。

【0027】

本体が矩形または正方形（または、辺の数が偶数である多角形）の全体形状を有することが、やはり有利である。この場合、接続領域が1つだけ存在すればよく、弾性的に圧縮することができるアセンブリが、プランジャを1つだけ備えればよく、この領域およびこのプランジャが、向かい合う2つの辺の実質的に真ん中に配置され、これがコンパクトかつ洗練された形状をもたらすとともに、動きを容易にする。一変形例（他にもあるが）においては、この本体が、対称の平面を有する任意の形状、特に、円形または楕円形を有することができ、接続部およびプランジャがそれぞれ1つだけ存在し、いずれもこの対称の平面に位置する。

30

【0028】

本発明の目的、特徴、および利点が、あくまでも本発明を限定するものではない説明用の例として添付の図面を参照しつつ提示される以下の説明から、明らかになる。

【図面の簡単な説明】

40

【0029】

【図1】本発明のケースの斜視図である。

【図2】本発明のケースの分解斜視図である。

【図3】本発明のケースの斜視図である。

【図4】ケースの本体内に収容された蓋と可動アセンブリとの間の接続部の断面図である。

。

【図5】閉じた状態にあるケースの断面図である。

【図6】図5と同様の図であり、蓋の操作領域を限られた移動量だけ押し込んだ後である。

。

【図7】図6と同様の図であり、蓋がケースから展開した後である。

50

【図 8】図 7 と同様の図であり、開放状態にある。

【図 9】固定要素を備えるプランジャの別の実施形態の断面図であり、図 5 に相当する状態にある。

【図 10】図 6 に相当する図 9 のプランジャの図である。

【図 11】図 7 に相当する図 9 のプランジャの図である。

【図 12】蓋の 2 安定の押し込みプランジャの別の例を示している詳細図であり、図 5 に相当する閉じた状態にある。

【図 13】図 6 に相当する図 12 のプランジャの図である。

【図 14】図 7 に相当する図 12 のプランジャの図である。

【発明を実施するための形態】

10

【0030】

図 1 が、本発明による（固形、ペースト状、または粉末状の）化粧品または身体衛生用品のためのケースを図式的に示しており、図 2 は、その分解図（操作要素は省略されている）である。

【0031】

このケース（全体が参照符号 1 によって示されている）が、底部 2 A と自由縁 2 B とを有する本体 2 を、製品へのアクセスが可能な状態（これが、図 1 のケースである）と蓋がケースの内部へのアクセスを妨げる閉じた状態との間を駆動するように取り付けられた蓋 3 とともに備えている。このように、蓋が、（後述されるように間接的にではあるが）本体に恒久的に接続されている。

20

【0032】

この本体に、対象とされる製品（ここでは参照符号 6 によって指し示されており、固形である場合には「ケーキ」と称されることもある）を収容している皿 5（通常は、「シフト」と称される）が配置されている。この製品は、粉末または化粧用の成分などであってもよい。

【0033】

図示の例では、自由縁 2 B が、下縁によって底部 2 A に接続された横壁 2 C の上縁によって形成されている。さらに、この本体が、おおむね矩形の形状を有しており、さらに詳しくは、湾曲した辺を有する実質的に正方形の形状を有している。

【0034】

30

より正確には、図 2 からさらに明らかであるとおり、図示の例においては、底部 2 A が横壁に取り付けられる部材であり、したがって、必要であれば、底部およびこの横壁が、2 つの異なる素材であってもよく、異なる見た目、さらには、対照的な見た目を有することができる。一変形例（図示せず）においては、本体が一体部品からなる。

【0035】

図 1 において、蓋は、ユーザによる自身の顔への製品 6 の適用を助けることができる鏡 7 を、内面に有している。

【0036】

蓋がケース本体に直接的に接続される従来のアセンブリと対照的に、蓋 3 は、皿を含んでおり、底部に対して垂直な方向に平行移動することができる可動アセンブリに、領域 9 において接続される。さらに、ケースは、最大押し込み位置に対して 2 つの安定な引っ込み位置を有している弾性的に圧縮可能なアセンブリを備えており、この弾性的に圧縮可能なアセンブリが、可動アセンブリの最大押し込み状態および最小押し込み状態を定めるように、本体と可動アセンブリとの間に配置されている。最大押し込み状態および最小押し込み状態は、可動アセンブリが最大押し込み状態にあり、かつ蓋が閉じられた状態にあるとき、可動アセンブリと蓋の少なくとも一部分との間の接続の領域が、本体内に格納される一方で、可動アセンブリが最小押し込み状態にあるときは、接続の領域が少なくとも部分的に本体の外に位置して、その状態の間で蓋の駆動が可能にされ、ユーザにこの駆動をもたらすための十分な把持が提供されるような状態である。これらの種々の状態を、以下で説明する。

40

50

## 【 0 0 3 7 】

可動アセンブリは、主としてフレーム 1 1 を備えており、図示の例では、蓋 3 が、全体が参照符号 1 0 によって指し示されているヒンジによって、このフレームに接続される。このヒンジは、任意の適切な知られている種類のヒンジである。ここで検討されている例では、ヒンジが、単純に、一方では蓋に取り付けられたラグ 3 B を通過し、他方ではフレームに取り付けられたラグ 8 を通過する接続ピンによって形成されている。あるいは、この接続部を、蓋のラグ 3 B およびフレームのラグ 8 をそれぞれ通過する 2 つのリベットで構成してもよい。他の知られている種類の接続部および / またはヒンジも、当然ながら可能である。

## 【 0 0 3 8 】

この単純なヒンジは、ケース本体が多角形の断面を有していることに鑑み、実質的にケース本体の一辺の中央に位置している。

## 【 0 0 3 9 】

皿またはシフタ 5 は、有利には、フレーム 1 1 に係合した取り外し可能な部品であり、ここでは、このフレームそれ自体が、好ましくはフレームを本体の外に付勢する少なくとも 1 つの弾性部材（ここでは、ばねであり、そのうちの 1 つが参照符号 1 2 で示されている）に取り付けられている。このフレームは、有利には、ばねの作用に逆らって動いて底部に当接することによってこのフレームの最大押し込み位置を形成する足 1 1 A を備えている。この皿は、有利には、使用時に取り付けられたままであることができる一方で、（例えば、手入れまたは製品の交換のために）必要であれば一時的に取り外すことができるように、このフレームに可逆に接続される。この可逆の固定は、例えばこの皿およびこのフレーム上の相補的部材（図示せず）を一体に留めることによって生み出される。図示されていない一変形例においては、皿がフレームに恒久的に取り付けられ、またはフレームと一緒に可動アセンブリを構成する単一部品を形成する。

## 【 0 0 4 0 】

図示の例では、ケースが開いた状態（図 3 を参照）であるとき、フレーム 1 1 が、好ましくは本体の自由縁 2 B に対して引っ込んでおり（すなわち、自由縁 2 B よりも低い）、フレーム 1 1 に係合した皿 5 が、自由縁 2 B と同一面になることを可能にしている。このフレームを、蓋を閉じた状態においてこの自由縁と同一面にでき、すなわち蓋をこの本体に十分に引き込んで、蓋が不都合にも強制的に開かれてしまうような程度まで外部の要素に引っ掛かることがないようにするために、（皿と一緒に）ケース本体の底部に向かってさらに引っ込めることができる。

## 【 0 0 4 1 】

皿は、本体の自由縁に比べて引っ込んでいる押し込み状態（図 4 を参照）と、有利にはこの自由縁と同一面に位置する使用状態との間で、可動である。

## 【 0 0 4 2 】

最大押し込み位置に対して 2 つの安定な引っ込み状態を有している弾性的に圧縮可能なアセンブリは、実際には、図 2 に参照符号 4 0 で示されており、図 9 から図 1 1 を参照してさらに詳しく説明されるような少なくとも 1 つのプランジャを備えている。

## 【 0 0 4 3 】

フレームは、有利には、本体の横壁 2 C に対して小さなすき間を有しつつ、本体内に保持されている（本体から出ることがない）。この保持は、有利には、フレームの下面および本体の底部に設けられた相補的スタッドの間の緩い固定の相互係合によって達成される（スタッドが、フレームに設けられた足 1 1 A、および底部に取り付けられ、ここではばねによって囲まれている円筒形の筒 1 1 B を含んでもよい）。

## 【 0 0 4 4 】

ここで検討されている実施形態において、フレームが、対称の平面（例えば図 4 の平面であるが、接続の領域 9 と交わる垂直面）に対して実質的に対称な形式で分布した少なくとも 2 つの同一なばねによって押されることが、図 3 から明らかである。

## 【 0 0 4 5 】

単一連接領域 9 に代え、蓋を複数の領域において連接することも可能であり、例えば 2 つの連接領域を、ケースの対称の平面（存在する場合）に関して対称に配置することができる。

【0046】

連接領域 9 は、近くに位置する本体の辺よりも短い（例えば、そのような辺の長さの半分以下であり、典型的には  $1/4$  から  $1/2$  の間である）。ねじれの無い精密な駆動を保証するためには、ヒンジがこの辺の長さの約  $4$  分の  $1$  にわたって延びれば充分（さらに短くてもよい）である。

【0047】

フレームは、有利には、複数のばね（ここでは、本体の各々の角に 1 つのばね）によって押され、これによって案内が最適化されるとともに、フレームの座屈の恐れが最小限にされ、したがって可動アセンブリが引っ掛かって動かなくなる恐れが最小限にされる。あるいは、ばねが別の数（とりわけ、より少数）であってもよい。

【0048】

これらの弾性要素は、実際には、可動アセンブリ（および、蓋）の最大押し込み状態への保持を妨げることなく、フレームおよび皿をケースの開放状態に持ち上げるために充分である。

【0049】

横壁は、有利には、すべての地点においてブランジャの移動の方向（すなわち、上方）に平行であり、すなわち、この壁によって画定される内部の空間が、一定の水平断面である。

【0050】

図 5 から図 8 が、上述のようなケースの開放における 4 つの段階を示している。

【0051】

図 5 においては、蓋が、ケースの本体の自由縁と同一面に位置しており、2 安定のアセンブリ（すなわち、2 つの安定位置を有している弾性的に圧縮可能なアセンブリ）が、引っ込んだ状態（図 9）にある。この位置において、連接の軸は、ケース本体の横壁の上部自由縁の高さよりも下方にある。

【0052】

ユーザは、製品へのアクセスを望む場合、蓋（したがって、可動アセンブリ）のどこか（好ましくは、実質的に中央）に、本体の底部に向かう押し  $P$  を加える（図 6）。この結果として、2 安定のアセンブリ（すなわち、ブランジャ 40）が、最大押し込み状態（図 10）またはその付近まで動かされるが、これは不安定な最大押し込み状態であり、蓋への圧力が取り除かれるとブランジャが自発的に自由な状態（図 11）に移動し、したがって可動アセンブリおよび蓋が、わずかに上方に移動（図 7 を参照）する。このわずかな上方移動は、充分な把持（図 7 に  $D$  によって示されている）を提供するために充分であり、可動アセンブリと蓋との組み合わせが移動することで連接部 10 がケース本体の横壁の自由縁よりも充分に上方に持ち上げられ、典型的には  $90^\circ$  を超え、例えば  $120^\circ$  に達し、さらには  $120^\circ$  を超えることもできる大きな角度の駆動が可能になるということのおかげで、ユーザがただ 1 本の指または指の爪を使用して蓋をユーザに適した開放状態（図 8）に動かすことができる。

【0053】

一変形例（図示せず）においては、蓋が自発的に最大開放状態に移動するように蓋にトルクを加えるために、ヒンジにばねが組み合わせられる（このトルクは、蓋が必要なときに閉じた状態にとどまることを妨げるためには充分でない）。他の変形例においては、弾性的に変形することができる部材を、蓋を両極端な角度位置のうちの他方、すなわち閉じた状態に保持するうえで役立つように設けることも可能であり、例えば突起を、閉じた状態にある蓋を軽く保持するために、自由縁の内側に沿って延ばすことが可能である。両極端な状態のうちの一方および/または他方への蓋の保持を、ヒンジのピンの変形によってもたらされ、板ばね、磁石、または任意の他の適切な要素と協働するあたり（hard

10

20

30

40

50

s p o t)によって、補助することも可能である。

【 0 0 5 4 】

蓋を格納状態から解放するような力は加えないようにして、蓋を閉じるために、ユーザは、蓋を畳み、プランジャが蓋を自由縁と同一面に位置させる引き込み状態に至るように、プランジャを最大押し込み状態またはその付近まで押すために十分に強く蓋を押す。可動アセンブリを最小押し込み状態よりも上方に持ち上げようとする力の存在は、上述のスタッド 1 1 A および 1 1 B の間に戻り止めが存在して、可動アセンブリの上方位置を画定する当接部を構成している場合、容認することができる。これらの戻り止めは、有利には外すことができる。

【 0 0 5 5 】

蓋が閉じた状態にあるときに不慮の開放のための手掛かりをもたらさないということは、特にここで検討されている場合のように蓋がドーム状である場合に、蓋全体がケースの空間内に格納されることを必ずしも意味しないことは、明らかである。蓋の自由縁の厚さの一部だけがケース本体の空間内に格納されるだけでも、充分である。

【 0 0 5 6 】

2 安定のアセンブリは、少なくとも 1 つの 2 安定のプランジャを備えている（好ましくは、2 つの同一なプランジャが互いに大きく離して配置される）。

【 0 0 5 7 】

図 9 から図 1 1 に図式的に示されているように、プランジャ 4 0 は、互いに対して可動であり、少なくとも 1 つのばねによって互いに対してばね付勢されている 2 つの部品を備えている。これらの部品の一方、すなわち部品 4 1 は、底部の平均平面に垂直な平面におおむね位置した、すなわち、垂直であるハート形の閉じた案内トラック（ここでは、矢じり形の突出部 4 2 を囲んでいる）に取り付けられている。他方の部品 4 3 は、フォロワフィングを有するアーム 4 4 を備えており、フォロワフィングが、フォロワフィングおよび案内トラックの当接面の間の相対移動の際に、案内トラックに沿うように構成されている。これらの部品は、回転の相対運動を有し、またはフォロワフィングが、枢動の相対運動を有する（図示の状況）。フォロワフィングが経路の切り欠き 4 2 A（すなわち、その下部）に保持されるとき、プランジャが引き込まれる一方で、フォロワフィングが経路のうちの上方部分に位置するとき、プランジャは展開状態である。

【 0 0 5 8 】

ここで、部品 4 1 がケース本体に取り付けられている一方で、部品 4 3 は、可動アセンブリが状態を変化させるように当接している可動部品である。

【 0 0 5 9 】

プランジャ 4 1 が、垂直な平面内におおむね位置するトラックを備えているということの結果として、このプランジャは、ケース本体の横壁 2 C の一部分に沿って位置することを可能にする平たい断面を有することができる。

【 0 0 6 0 】

図 9 から図 1 1 において、アーム 4 4 が、フォロワフィングを過ぎて端部 4 8 まで延びていることに、留意することができる。そのように延びている（ここでは直線状であるが、代わりに曲がっていてもよい）ことで、複数のプランジャのフォロワフィングの間の接続が、例えば図 2 のリンク 4 8 によって可能になる。これにより、2 安定のアセンブリの一部を形成する種々のプランジャの同期が可能になる。

【 0 0 6 1 】

プランジャのうちの少なくとも 1 つは、有利には、可動アセンブリに（または、可動アセンブリを介して蓋に）設けられた相補的取り付け要素と最大押し込み状態において互いに係合するように構成され、これにより、ばね 1 2 の力にかかわらず、蓋の閉鎖位置への堅固な保持を保証することができ、全体としてケースに対して偏心して位置する 1 つのプランジャしか存在しない場合であっても、可動アセンブリの正確な案内を保証することができる。

【 0 0 6 2 】

より正確には、ここではプランジャの可動部品 4 3 が、おおむね蓋の方向に向けられた爪 4 5 を備えており、そのような爪 4 5 が、この部品 4 3 と一緒に、爪が開いている上方位置と、爪が閉じ合わせられる下方位置との間を、底部に対して垂直な方向にスライドするように取り付けられている。さらに、可動アセンブリまたは蓋が、蓋が閉じた状態にあるときに爪の間に係合する突起 4 6 (図 2 を参照) を備えている。

【 0 0 6 3 】

図示の例では、留め爪が、プランジャの可動部品に取り付けられ、すなわちプランジャが、留め(または、ロック)を一体化させた形式である。しかしながら、一変形例において、プランジャとロック機能とを別々の構成要素に分離させてもよいことは、明らかである。

10

【 0 0 6 4 】

爪が取り付けられた可動部品は、有利には、爪を斜面 4 7 (爪を互いに向かって押し合わせるように構成されている)の間に進入させるべく突起が当接する当接部(ここでは、中央の当接部)を備えている。

【 0 0 6 5 】

図 1 2 から図 1 4 は、2 安定のアセンブリの一部を形成するプランジャの変形例を示している。このプランジャ 6 0 は、互いに対して回転および平行移動が可能であり、少なくとも 1 つのばね 6 3 によって押し合わせられている 2 つのリング 6 1 および 6 2 で形成された 2 つの当接面を備えている形式である。底部に対して可動である一方のリング 6 1 が、底部に取り付けられた他方のリング 6 2 に取り付けられた環状のトラックに対して軸方向に押し付けられる放射状の突起を備えており、底部の方向を向いているこのトラックが、2 つの異なる高さのうちの一方または他方を有する(上向きの)歯を備えている鋸歯状である。放射状の突起が浅い歯または深い歯のいずれに面するかによって、可動リング 6 1 が固定リング 6 1 の内側で上昇できるか否かが決まり、その結果として、プランジャが 2 つの状態のうちの一方または他方をとることが、明らかである。

20

【 0 0 6 6 】

この形式のプランジャは、原理的には、ボールペンの押しボタンにある程度似ている。

【 0 0 6 7 】

この形式のプランジャは、ケース本体の横壁から離れた場所においては、プランジャ 4 0 よりも好適であると考えられる。しかしながら、ケースの内部への収容がより容易である点で、プランジャ 4 0 が好ましいと考えられる。

30

【 0 0 6 8 】

蓋の開放が、可動アセンブリが高い位置にある場合に限って可能であり、反対に、可動アセンブリの下降が、蓋が可動アセンブリに向かって畳まれた場合に限って可能であるように、蓋の開放と可動アセンブリの下降との間に(受動的な)結合を使用することが可能である。例えば、蓋に取り付けられるフィンガと協働するように、ヒンジの付近において本体 2 の横壁にくさびを設けることができる。

【 0 0 6 9 】

当然ながら、本発明のケースは、多数の他の形状を有することができ、とりわけ多角形であってもよく、あるいは円形または長円形であってもよい。

40

【 0 0 7 0 】

さらに、これらのケースの構成要素が、本明細書において明示的に上述された構成要素から相違してもよい。すなわち、特に、コイルばね 1 2 を、板ばねまたは任意の他の種類のばね部材で置き換えることができる。

【 0 0 7 1 】

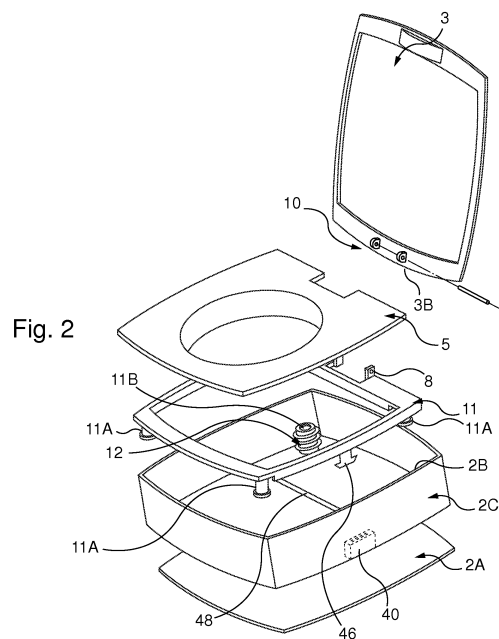
本発明を限定するものではない例示のための例として：

ケースの本体は、A B S タイプのプラスチック材料であり、保護用のニスで覆われ、7 0 mm の長さおよび 7 0 mm の幅(したがって、断面が実質的に正方形である)ならびに 1 5 mm の厚さを有しており、底部が 2 mm の厚さを有し、壁の厚さが 1 . 5 mm であり、スタッド 1 1 の直径が 6 mm であり、

50

皿が、PPタイプのプラスチック材料であって、1.5 mmの厚さを有し、

【圖 2】



【図 3】

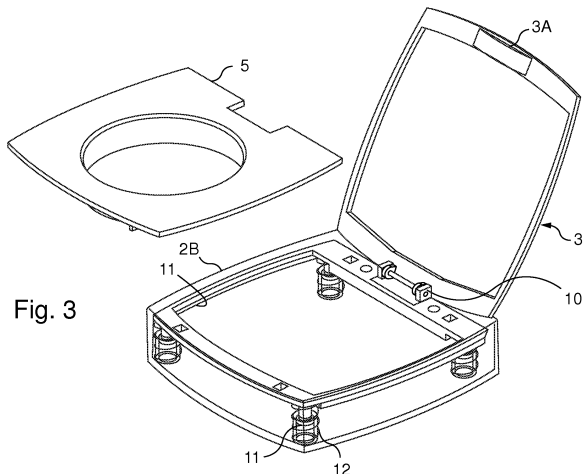


Fig. 3

【図 4】

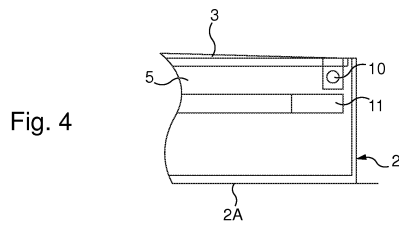


Fig. 4

【図 9】

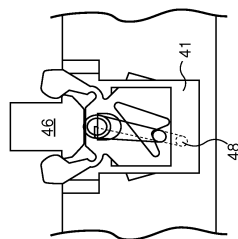


Fig. 9

【図 10】

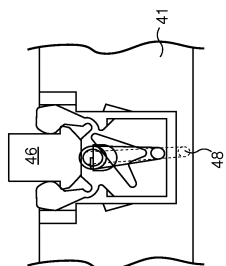


Fig. 10

【図 5】

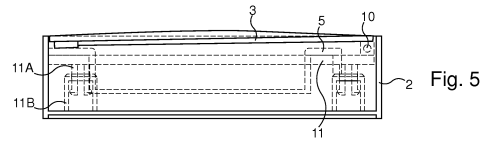


Fig. 5

【図 6】

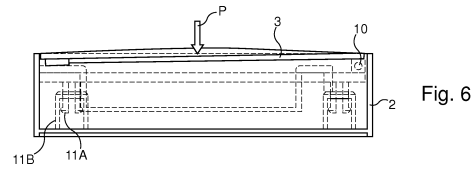


Fig. 6

【図 7】

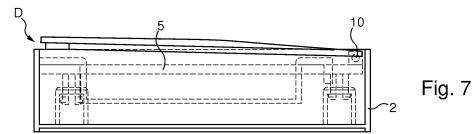


Fig. 7

【図 8】

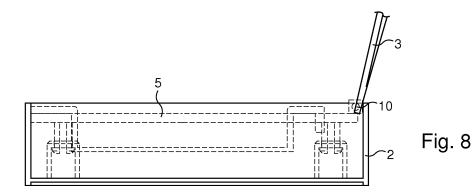


Fig. 8

【図 11】

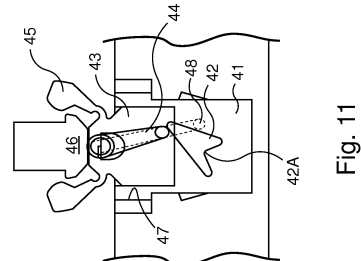


Fig. 11

【図 12】

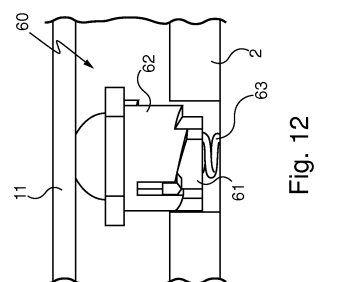


Fig. 12

【図 13】

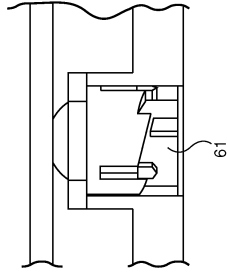


Fig. 13

【図 14】

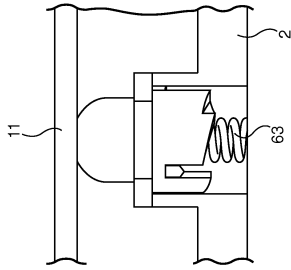


Fig. 14

---

フロントページの続き

- (72)発明者 サルシアリニ, クリステイアン  
フランス国、エフ - 7 7 8 6 0 ・ クイリ・ボン・オー・ダム、リュ・グア・1 3
- (72)発明者 ペラン, オリビエ  
フランス国、エフ - 9 2 3 2 0 ・ シヤテイヨン、リュ・ラゼーグ、5 4
- (72)発明者 ルガストウロワ, シルビ  
フランス国、エフ - 9 2 6 0 0 ・ アニエール・シユル・セーヌ、リュ・ドユ・シヤトー、4 5

審査官 青木 良憲

- (56)参考文献 実開昭 6 1 - 0 1 2 4 0 6 ( J P , U )  
特開 2 0 0 7 - 0 6 1 3 9 3 ( J P , A )  
実開平 0 2 - 1 0 6 1 1 4 ( J P , U )  
米国特許第 2 0 5 4 0 0 4 ( U S , A )  
実開平 0 2 - 1 2 6 5 0 7 ( J P , U )  
実開平 0 3 - 0 2 4 0 1 8 ( J P , U )

- (58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)  
A 4 5 D 3 3 / 0 0